



屋根下葺材

改質アスファルトルーフィング

マスタールーフィング

耐用年数

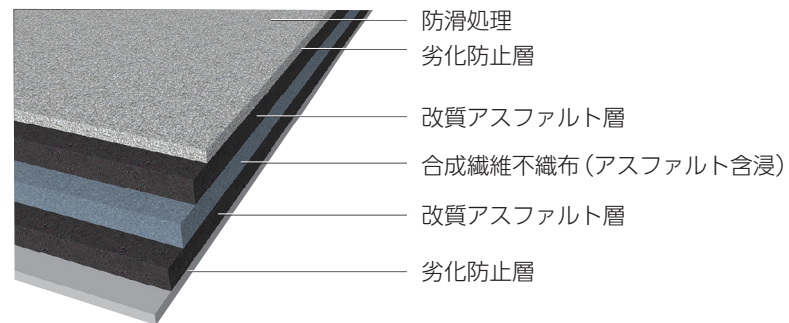
60年以上

※ 一般的なルーフィングの
寿命は10～15年程度



製品の概要

約60年の高耐久性を実現しています。



製品の特徴

耐用年数が伸びることによりライフサイクルコストを低減できます。耐用期間向上によりメンテナンス時に発生するCO₂を削減できます。

設計・施工

設計・施工は通常の屋根下葺材と同じです。

耐用年数の根拠

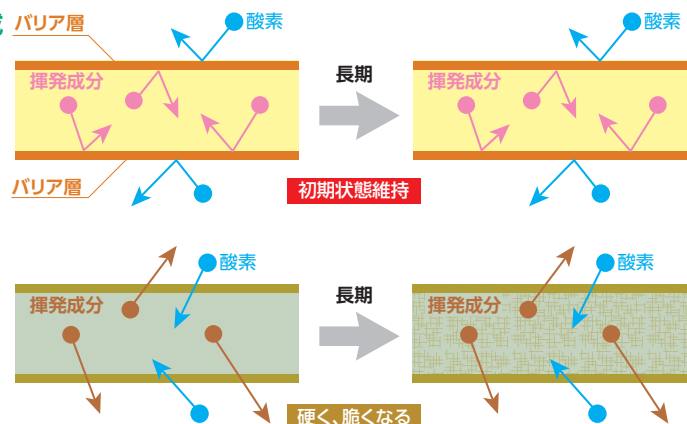
下葺材の防水層であるアスファルトが劣化するとアスファルトが持っている粘弾性が消失し、アスファルトが硬く、脆くなります。マスタールーフィングは、表面をバリア層(劣化防止層)にすることで、内部への酸素の侵入を抑えて酸化を防ぎ、耐久性を向上しています。

■ マスタールーフィングの構成

「バリア層」がアスファルト層への酸素の侵入を防ぎ、長年にわたり初期状態を維持します。

■ 下葺材の劣化現象

アスファルト中の揮発分が表面に流出。外側から酸素が侵入し(酸化劣化)、粘弾性的性質が消失。アスファルトが硬く脆くなります。



一般資材との違い

製品の優位性：高耐久により、メンテナンスサイクルを伸ばすことができ、LCC(ライフサイクルコスト)を低減できます。
また、優れた防水性(釘穴シーリング性)を有しております。

■ マスタールーフィングとアスファルトルーフィング940の釘穴シーリング性

		マスタールーフィング	アスファルトルーフィング940
水頭高	30mm	0/10	3/10
	150mm	0/10	8/10

■ マスタールーフィングとアスファルトルーフィング940の促進劣化時の(60年相当)釘穴シーリング性

		マスタールーフィング	アスファルトルーフィング940
水頭高	30mm	0/10	10/10
	150mm	0/10	10/10

※当社促進劣化試験による

日本防水材料協会規格「改質アスファルトルーフィング下葺材」ARK-04に準じる。

メンテナンス

屋根全体を30年以上メンテナンスしない場合は、高耐久な屋根材を用いる必要があります。メンテナンスを行う場合は、屋根材のメンテナンスに合わせて行います。

一般的に高耐久といわれている下葺材でも耐用年数は20～30年とされてきましたが、マスタールーフィングは約2倍以上です。コストパフォーマンスに優れ、長年にわたり建物を守り続けます。一次防水の屋根材に耐久性の高いものを併用すれば、屋根全体としての耐用期間が向上し、建築後の改修・維持・管理にかかるメンテナンスを大幅に軽減。ライフサイクルを長期で考えた場合のコスト低減に貢献します。

■ 一般的な瓦屋根のメンテナンススケジュールとコストの例

築後約30年で瓦を再利用して締め直し、約60年で葺替え(瓦交換)を想定した場合の屋根下葺材のシミュレーションです。

補修時期の目安	5年	10年	20年	30年	40年	50年	60年
下葺材							
マスタールーフィング	-	-	-	-	-	-	葺替え
従来の高耐久ルーフィング	-	-	-	全交換	-	-	
アスファルトルーフィング940	-	部分交換	部分交換	全交換	部分交換	部分交換	

LCC

高耐久仕様：約100万円
一般仕様：約250万円

※60年間での新築(建設)時
とメンテナンス(使用)時
のコスト比較
※材料費、足場、工事費含む

提供価格

条件により異なるため
個別にお問合せください。

免責事項・適用条件

屋根材仕様による。

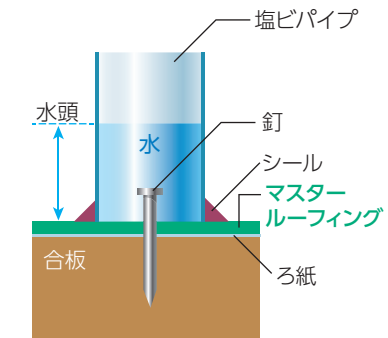
特にアピール

約60年の耐久性を実現しました。

田島ルーフィング株式会社
住建営業部
電話 03-5821-7713
https://tajima.jp/juken/
ホームページはこちら

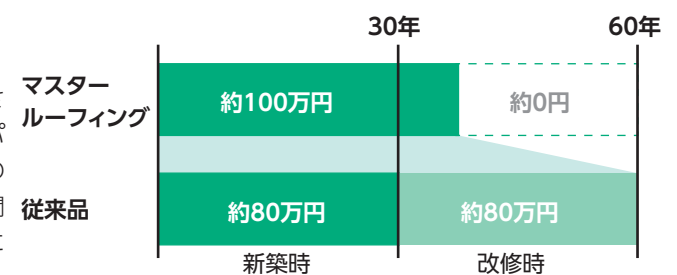


■ 静水圧法試験



屋根下葺材に求められる重要な特性は釘穴シーリング性です。マスタールーフィングは初期性能、促進劣化後(60年経過時相当)とともに優れた釘穴シーリング性を示しています。

■ 屋根工事費用の比較



※新築後、約30年で屋根を改修した場合